

# 琉球大学学術リポジトリ

## 最も大学の講義らしくない授業

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三輪, 一義, Miwa, Kazuyoshi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41368">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41368</a>

# 最も大学の講義らしくない授業

「健康・スポーツ科学」担当 三輪一義(教育学部)

## 琉大の体育科目

琉大の共通教育科目における「体育」は、『健康運動系科目』といます。この中に、『講義系科目』と『演習系科目』があり、学生に言わせれば、講義系はいわゆる座学と呼ぶもので、演習系は実技と呼ばれるものになります。

今回のPOYは、この制度が始まって以来、体育において、初めて実技ではなく講義が受賞したことになります。体育＝実技という印象がまだまだ根強い中で、大学における体育系科目の果たす役割について、ちょっと変わった講義系授業の実践をお話したいと思います。

## 体育会系の規律

大学体育における理念には様々なことが唱えられていますが、私は思いっきり“体育会系の規律”を授業に持ち込んでいます。

まず、シラバスに「私は今時珍しい恐い教員です」と書かれていることから始まります。第1回目のオリエンテーションでは、「授業を受講する際の約束事」と「授業計画表」を、黙々と、そして決して笑わずに説明します。わざと“ただならぬ雰囲気”を作り出します。何事も最初が肝心だからです。この時点で単位だけ取ろうなどという軽い気持ちで登録しようとしている学生にはなるべくご遠慮頂くようにしています。

「授業を受講する際の約束事」には、大学の授業では異例とも言える内容が並べられています。遅刻や携帯電話や欠席届に関する内容はもちろんのこと、『私は真剣に受講しようとしている人のために教室内環境を整える義務がある』とか『あなたを大人としてみなしたい。ゆえに、先生だから許される、学生だから許されないということは決してない。学生も教員も対等であるとの考えである』などと書かれています。そして最後には『以

上がこの講義を受講する際の、私とあなたの契約事項です。この契約を守れると約束できる人がこの講義を登録して下さい』で締められています。これにより、毎年10数人の生徒にその場で取消印を押すこととなります。しかし、この「最初が肝心」のオリエンテーションにより、150名近い登録人数にも関わらず、毎回の出席率平均は93.5%になります。

## 一話完結で“広く浅く”

「授業計画表」には日付とその回のトピックスが記載されています。この授業は、健康と運動・スポーツに関する14のトピックスを一話完結で講義していく方式にしています。「スポーツでケガをしてしまったら?(応急処置)」「暑さの中で運動しても良いの?(熱中症)」「ストレッチの裏側を知ろう」「テーピングを観てみよう」「お酒の上手な飲み方を知ろう(飲酒と健康)」「人はなぜ眠るのか(睡眠と健康)」「この世からタバコがなくならないのはなぜ?(喫煙と健康)」「運動不足は何を引き起こす?」等、健康スポーツに関わる多様な分野から、普段の学生生活で興味を持てる内容を広く選んでいます。

授業方式は70分程度の板書を伴う一方的な講義に、20分のミニテストを課しています。大講義室におけるコミュニケーションやディスカッションが話題になっていますが、私にはその能力がないので、クラシックスタイルを貫いています。また、学生に自分のノートに“書くこと”によって覚えてもらうために、あえてパワーポイント等は使わずに、板書にこだわっています。(大量の板書は大型ホワイトボードを3往復することもあります。)ただ、70分程度で学生に伝えられる情報量には限界があるため、内容は共通教育レベルでしか構成できません。

ミニテストは、大教室における出席点呼を厳密することを兼ねて、授業時間内でその回の内容を振り返らせることを目的に、論述形式で行っています。150名の名前を直接呼ぶ時間を省き、代返や代答を防ぐことにも繋がります。学生は直前に書いた授業内容を再び書くことになる訳ですが、この作業によって知識を頭に定着させたり、自分の意見を改めてまとめたりすることに大いに役立っていると思います。150名分のミニレポートを毎週毎週評価するのは一苦勞ですが、学生は授業に集中せざるを得ず、90分間の教室はピンと張り詰めた空気に包まれています。

### おしゃべりと遅刻

先程の“体育会系の規律”の象徴は、授業中の「おしゃべり」と「遅刻」の対応にも表れています。

おしゃべりは小学生の特権かもしれませんが、今時の大学生も放っておくといつまでもおしゃべりは止まりません。授業開始のベルが鳴ると同時に、教室の入口扉を閉めて教壇に仁王立ちします。「静かに！」とか「授業を始めます！」とか、一切何も言わずに無言で立ち続けます。当然おしゃべりは止まりませんが、喋っている学生の顔を静かに見つめていると、本人もしくは周囲の仲間がそれに気づいて自ら止めます。3グループくらいに対してこれを続けると、教室がしーんとなります。それからおもむろに小さな声で「小学生じゃないんだから、静かにしなさいと言われなくていいのは恥ずかしくないかい？」と声を掛けます。授業の途中で隣の友達とのお喋りが続いて、周囲に迷惑がかかるような状況になったときには、直ちに講義を中断し、「そこ、何か質問がある？」と聞きます。そのまま放っておかないようにしています。これらの所作に対し、学生が慣れるまで最初の3時間くらいは時間を必要としますが、その後はベルが鳴って扉を閉めて教壇に立つだけで、学生自ら臨戦態勢になってくれますし、授業中の会話も一切なくなります。

遅刻は、教員も真面目にルールを守っている学

生も気持ちの良いものではありません。この授業では、学生が遅刻をしてくると、その学生が着席するまで講義を中断して、みんなでじっと見つめておきます。あえて言葉かけはしません。ただ黙って着席するのを待っています。150名近い学生が座っていますので、空席はほとんどなく、座ることが出来るまで30秒くらいかかるのですが、その間は150名が注視することになります。このプレッシャーが「遅刻すると恥ずかしい」という雰囲気させていると思います。最近の学生は「迷惑を掛けるからやらない」という正論より「恥ずかしいからやらない」という気持ちの方が強く働くような気がします。

先日の授業で、私が授業にどうしても欠かせない大切な物を忘れたことに気づいたのが授業開始6分前ということがありました。「どうしよう？」と思う間もなく、『もしかしたら授業開始が少しだけ遅れます』と板書すると同時に教室を飛び出し、共通教育棟の教室から研究室のある体育教官棟まで年齢不相応のダッシュで往復し、息を切らせて汗ダラダラ足ガクガクで再び教室に戻ったのは、授業開始のベルが鳴ると同時だったという事件がありました。過去19年間、この講義には一度たりとも遅刻をしたことがない“こだわり”と、“先生だから許されるということはない”という学生との約束を破らずに済んだ出来事でした。

### 疑問解消のオープニングトーク

友達でもない150名がぎっしり座っている大教室で、授業の最後に「質問がありますか？」との問いかけをして、颯爽と手を挙げられる学生は表彰に値すると思います。疑問はあるのだが勇気がない。それくらい大教室での質問が少なくなっている中で、この授業ではミニテストを有効に活用しています。授業中の疑問は、配付したミニテスト用紙の裏側に書いてもらい、次の授業の最初に回答できる範囲で答える時間を作っています。よって、毎時間のオープニングトークは前回の疑問解消タイムになります。毎時間十数人の学生が質問を書いてきますが、授業テーマとかけ

離れている内容もあり、どのレベルでどのように答えるか、ここにも実は苦勞があります。

### 全体のストーリーで

約束事として、第1回目のオリエンテーションで授業方針や評価方法を明確にしたり、授業内容を日付毎にきちんと提示したりすることによって、『見通しを持つ』ことを大切にして、最後までそれを守る。この授業スタイルを貫いてきた「健康・スポーツ科学」の講義ですが、大学体育が大学教育に果たす役割の一つとして、【最も大学の講義らしくない授業】といえる部分にこだわってやってきたことが、学生に評価されたのかもかもしれません。1回1回の単独の“講義”でなく、15回全体のストーリーとしての“授業”に学生が共感してくれたとも言えるのではないのでしょうか。

ですから、この授業はFDとして、ある1回だけの公開授業を見てもらっても伝わらないことがたくさんあると思います。全体のストーリーとして半学期を受講した時に初めて評価されるという、【最も大学の講義らしくない授業】なのではないかと思っています。

### 生徒の授業評価

この授業では、最後の授業評価マークシートの時に、別紙に「先生に対するお手紙」と称して、無記名・自由提出で書いてもらっています。その中から、2人の学生の授業評価の原文を掲載して終わりにしたいと思います。

「一番最初のオリエンテーションの時は、私はすぐに来なくなってしまうのではないかと、思っていました。90分の座学で、あまり興味のない“健康”という内容で、なおかつ担当の教授がとても恐そうだったためです。しかし、その次の講義にはガラッと人が変わったようにとてもファニーな雰囲気を持った、少し変わった教授だなと印象が変わったことを覚えています。講義の内容としても“運動と健康”の基礎的な内容、でも少し理解に難しい内容でありましたが、私たちの生活や習

慣に話しを落として下さったので、より具体的、効果的に頭に入ってきたことは確かです。また、たまにプライベートの話も交えて講義を進められていたので、ONとOFFの切り換えが絶妙で聞いてメモしているだけなのに、あたかも体験しているかのような印象を受けました。半年間ありがとうございました。お酒と楽しく付き合えるよう頑張ります。」

「私は、実は既に体育を座学で1単位取得しており、本当はニュースポーツを受講しようと考えていました。100ポイントを賭けたのですが抽選で外れ、仕方なくこの授業に登録しました。すみません。でも今となっては、初めのやる気の無さが嘘のように、心から受講して良かったと思っています。毎週木曜日が来るのが楽しみで、一緒に登録した友人と次回のテーマについて話したりもしました。よくよく考えてみると、私をこんなに惹きつけたのは、やはり先生の人柄だと思います。授業に遅刻をしないことをはじめとする生徒に対する姿勢です。人として、相手の立場に立った授業展開があったからこそです。もちろん内容も良く、特に熱中症の時は、“これだけは覚えていて欲しい”という先生の熱意が伝わりました。とにかく得るところの多い講義でした。これからもこういう講義を続けていって下さい。ありがとうございました。」